

第76回 株式会社USEN 放送番組審議会 議事録

■開催日時

2023年4月27日(木)16:00～

■開催場所

東京都品川区上大崎3-1-1 USEN 本社



■出席者

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

長谷川 演 委員

和合 治久 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正

取締役副社長 大田 安彦

コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀

コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄

コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 大森 有花

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 原 吉徳

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第59期第2四半期経営成績について

売上高は店舗サービス事業及びエネルギー事業は増収した。営業利益/経常利益/当期純利益については粗

利が増加し、一方で販管費も増加したが、各段階利益は増益で引き続き順調に推移した。

(2)4月番組改編について

4月3日に、番組改編を行った。営業ニーズ及びお客様の声から、利用シーンにマッチした世界の風景を音楽で再現したシリーズ、店内の「盛り上がり」を意識したシリーズ、トレンドや健康を意識したシリーズの3つのシリーズで新番組を放送開始した。また、一部チャンネル名の変更・終了も実施した。

(3)コロナ感染拡大防止コメントリニューアルについて

マスク着用における政府基本的対処方針の変更及び、新型コロナウイルスの感染症法での位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」への引き下げに伴い、これまで放送サービス内で展開してきたコロナ関連コメントのリニューアルを実施した。

(4)追悼番組の放送について

「K02 臨時特集 1」にて、1月13日～2月13日まで、1月10日に逝去されたジェフ・ベック氏を偲んで、「ジェフ・ベック 追悼特別番組」を放送した。また、「K03 臨時特集 2」にて、1月17日～2月15日まで、1月11日に逝去された高橋幸宏氏を偲んで、「高橋幸宏 追悼特別番組」を放送し、4月3日～5月8日まで、3月28日に逝去された坂本龍一氏を偲んで、「坂本龍一 追悼特別番組」を放送した。

(5)『USEN magazine』の発行について

2023年4月、会報誌『USEN magazine Vol.05 (2023年4月～2023年9月号)』を発行。業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

「利用シーン」×「番組」

3. 【対象番組】

■D-46 美食空間向けクラシック

■I-17 ワークアウト洋楽

4. 審議

【放送局】

第59期は「利用シーン」×「番組」を審議テーマとする。今回は「D-46 美食空間向けクラシック」、「I-17 ワークアウト洋楽」の2番組を審議頂きたい。

【審議委員】

今回の2番組は性質が大変異なるので、1番組ずつ審議したいと思う。まずは、「D-46 美食空間向けクラシック」から意見を伺いたい。

【審議委員】

「D-46 美食空間向けクラシック」は、ディレクターから説明が有った様に、方向性が非常にしっかりしていて、内容も良かった。ノブブルさや華やかさを感じられる内容で、緊張感を感じさせる事無く、食事を楽しんで頂ける空間を演出したいと

の事だが、自律神経学的な観点で考えると副交感神経を優位にする環境作りがとても大切だ。それに合致した音楽をバックグラウンドミュージックとして流す事は、消化機能も含め大変身体に良いと考えられる。私はモーツァルトの音楽療法の研究している関係でモーツァルトの楽曲を扱う事が有るのだが、「D-46 美食空間向けクラシック」では、私もよく使用する、非常に高い周波数が含まれるモーツァルトの楽曲も流れた。

ディレクターの意図する方向性が満たされているか、大きく4つの項目を念頭に置いて聴いた。①穏やかさを演出する為、それに繋がるようなテンポの楽曲が選曲されているか、②唾液がよく出て消化機能を高める為、高い周波数を発する倍音がよく出る要素や明るさを感じる楽曲が選曲されているか、③副交感神経を刺激する為、木管楽器や弦楽器の様にゆらぎやビブラートが沢山出るような楽器を用いた楽曲が選曲されているか、④品格や華やかさを醸成する為、透明感や軽やかさを感じられる楽曲が選曲されているか、といった項目だ。サンプルの楽曲はどれも4つの項目を満たしており、とても良い選曲だと感じた。ただ、中には曲の長さが2分以下で他の楽曲に比べると短い楽曲も選曲されていたのが気になった。聴き手にとっては、曲の長さも聴きやすさにおいて重要な要素になるので、バランス良く選曲するよう考慮しても良いのではないかと感じた。

小編成の室内楽を中心に、数曲に1回ピアノ独奏が流れる仕様との事だが、これはどういった意図が有るのだろうか。

【放送局】

箸休めと言おうか、弦楽器での演奏が続く中でBGM全体に緩急を付ける為に、少しふっと落ち着けるようにその様な仕様にしている。

【審議委員】

なるほど、理解出来た。

全体的にはとてもテンポも良く、緩やかな楽曲が選曲されていて非常に良かった。また、食事のシーンに大変合う選曲で、副交感神経を刺激し、ストレスを解消しながら食事を楽しんで貰いたいレストランで流すのに非常に良いと思う。

【審議委員】

審議委員を務める中で、色々な音楽を聴く機会、つまり自分では積極的に手を伸ばさない音楽を聴く機会を貰って感謝している。アーティストやクリエイターが命を懸けて作る曲、作品はとても大切にしないといけない物であるという前提が有る一方で、商業空間を作る為には商品として扱う、そのバランスをどう考えていくかが本当に大変だと思う。今の世の中の音楽の作られ方、扱い方を感じられて非常に面白いと感じている。

私が番組を審議する際の判断の基準は、曲自体が良い曲か、繋がりや統一感が感じられる曲順か、シーンに合っているかという3つだ。まず曲で言うと、どれも非常に良い曲だった。歴史を経て残って来た曲が、演奏技術の高い現代のアーティストによって演奏されていて、更に録音技術・修正技術の発展も有り、1曲1曲を取ると、非常に良い曲が並んでいた。バロックや古典派、ロマン派から選曲されているが、古典派のモーツァルトやベートーヴェンの流れの中では、ショパンは少し違和感を覚えた。次に統一感で言うと、曲の1曲1曲の良さに比べると多少ぶれが有る。数曲に1回流れるピアノ独奏については、室内楽を楽しんで食事をしている中で流れると、いきなり流れたように感じて、「D-46 美食空間向けクラシック」をBGMとして聴いていると目立ってしまっていた。クラリネットの演奏では全然感じなかったが、曲順の問題は有ると思う。シーンに合っているかで言うと、食事をする時に流れるBGMとしてはあまり合わないように思う。少し緊張感が有り、なんとなく聴いてご飯を楽しむというよりも、ついつい曲に耳を傾けてしまって、コンサートホールで音楽を聴いている様な感覚だった。また、お店で流す事を想定するとわざとらしくないかなと思った。昔、レコードやCDが無い時代は

部屋の中で食事をしている時に室内楽の生演奏を聴けるのが格好良かったが、今ではこれだけクオリティの高い物が録音されており、ストリングスがあった方が個人的には穏やかな気持ちになる。高級飲食店のお客様の雰囲気は分からないが、食事を始めれば普通に楽しくてBGMはそんなにしっかり聴かないと思う。でも、多少拘って言うともう少しリラックス出来る曲が入っていた方が良いと思った。

【放送局】

その緊張感を醸し出している原因は、曲自体に有るのだろうか、それとも演奏に有るのだろうか。

【審議委員】

曲自体から感じた。背筋をピンと伸ばしてナイフとフォークを持ってきちんと食べないといけない様な緊張感だ。演奏はどのアーティストによるのかは全然分からなかったが、ディレクターの説明を聞いてなんだかキラキラしているように感じたのは今、勢いのあるアーティストが演奏しているからだと言点があった。

ある程度年齢を重ねて高級飲食店に行くような人達は行き慣れていて恐らく緊張せず、もう少しリラックスして食事をするだろう。特に世界的にグルメブームになってからは、モーツァルトとベートーヴェンのクラシック音楽の格好良さは今の時代に求められる格好良さとは違うのではないかと思う。

【審議委員】

私はアーティストを調べながら聴いたが、作曲家を確認しながら聴いている方もいらっしゃるという事が興味深い。

【審議委員】

ベートーヴェンとモーツァルトは基本的に良いと思ったが、あまり食事を美味しく感じられないような作曲家も居た。

【審議委員】

やはり番組制作には出口が必要で、出口が決まっていれば入り口も決まる。つまり利用シーンが決まっていれば、選曲も決まるという事だ。「D-46 美食空間向けクラシック」で言うと、利用シーンとして想定している高級飲食店に居る人達がどの様なBGMを必要としているのか、そしてその精度をどう高めるのかという事が大事だと思う。今はUSENでもAI機能で来店客の性別や年代に合わせた選曲が出来るサービスを提供しているが、その精度をどう高めて行くかが重要だ。ディレクターも様々な音楽を聴きながら、自分の感覚で想定する利用シーンにはこういうBGMが良いだろうと選曲しているだろうが、高級飲食店の来店客やスタッフが一体どの様なBGMを必要としているのかというマーケティングも必要だと思う。私もそうだが、色々なお店に行ってみて、BGMが耳に入って来る時と入って来ない時が有る。意識したら聴こえる、意識しなかったら聴こえないというのはBGMのあるべき姿だと思う。自分の感覚だけではなく、番組を聴く人の声を聞きながら自分なりの感性で考えをまとめて、そこから逆算して選曲をどうするのかと良いのではないか。今回の「D-46 美食空間向けクラシック」は、その方法が合うのではないかと思う。

私も曲の長さは気になった。サンプルの中で一番長い曲と一番短い曲で7分程差がある。飲食店で食事をしているという想定で「D-46 美食空間向けクラシック」を聴いていたのだが、特に短い曲だと自分がお酒や料理を提供されている途中で曲が切れたら気になるのではないかと思った。実際に食事に行った訳ではなく、あくまで想定なので実際に気になるかは分からないが、サンプルを全て聴き、非常に良く出来た番組だと思ったが、実際に流れて来た時にどうなのかというのが判断出来ない。

【審議委員】

「D-46 美食空間向けクラシック」は、最初に番組名を見て、そもそも“美食”とは何だろうと思う所からスタートした。サンプルを聴いて、上品で心地良く、華やかさが有ってバランスが取れている番組だと感じ、例えば日曜日の朝に自分の家で最高の朝を迎えたいと思った時や、テラスで食事をする時に聴くには合うと思った。しかし、美食の最先端に合う BGM とは真逆ではないかと思う。美食をどう捉えるかという問題もあるが、食というのは今モードの最先端を行っているジャンルで、色々なシェフが登場し、他の人がまだ試していない調理法や食材を用いて恐ろしいエネルギーを使い研ぎ澄まされた最高の物を作り出そうと頑張り、最早作品の様になっている中で、幸せなクラシックは合わないのではないか。飲食店でクラシックが流れるとしたら、家族で営むアットホームな雰囲気や歴史のある老舗レストランの様な所ではないか。そのような場所では普通に BGM として馴染むと思うが、フレンチやイタリアンの高級飲食店でクラシックが流れていた記憶はほとんど無いし、流れていないのではないかと思う。ただ何軒か思い出したのは、以前審議対象になっていた「C-47 静かな環境 BGM」の様なコンテンポラリーで、何の音が鳴っているのか分からない様な非常に緊張感がある BGM が流れていたのはなんとなく覚えている。パリの三ツ星のグランメゾンでもほとんど BGM は流れていないと思う。

【放送局】

BGM 自体が流れていないのか？

【審議委員】

全く流れていない訳ではないが、向こうの人達はわいわい楽しく騒いで食事をするので、流れていたとしてもほとんど聴こえない。静かに食事をするのは日本人だけなのではないか。三ツ星のレストランでもドレスコードがあるが、もっと格上のレストランで、特に女性はドレスで着飾る様な所ではピアノの生演奏をしている。ウェイティングスペースからメインダイニングに続く廊下が有り、どちらにも聴こえる様にその中間にピアノが置かれていたりする。非常に大きい音で弾いているのが却って丁度良く、かなり広いメインダイニングでも聴こえる。その様な緊張感の有る高級飲食店では、「D-46 美食空間向けクラシック」の様な安心安定のバランスの取れた BGM は求めているのではないか。バランスが取れれば取れるほど、普通になってしまう。食も音楽もそうだが、目に見えない物、要するに瞬間で流れて行ってしまう物は記憶にしか残らないので、記憶を頼りにコメントしようとするほどどんどん薄れていく。バランスが取れ過ぎるとそもそもコメントのしようがなく、どこをどう尖らせるかをすごく考えさせられる。キレが有るとか、甘い・辛いとか、その様な話だけではなく、バランスを取る事が必ずしも良しとされない時代で、どこで見つけて貰うかという観点も有ると思う。美食の空間は、予約をする時からどの様な料理が出るのか、何のワインを合わせようかと楽しみで予約するので、この番組がコンセプトとしている、ゆったり落ち着いて幸せに食べるというのは真逆を行っているのではないかと思う。クラシックの柔らかい印象だと逆行している。ではこの番組が何処に合うのかというと、例えば食の空間だと結婚式の食事会場ではアットホームな雰囲気で完璧に合うのではないか。

【放送局】

“美食”空間ではモードの尖った BGM が流れているべきで、実際そうだという事だろうか。

【審議委員】

恐らく実際そうだと思う。雰囲気の問題で、クラシックが流れている=客単価が安い、高いとはまた別の話だ。昔は、高級

なイタリアンではオペラ等如何にもイタリアのBGMが流れていたり、フレンチでもクラシックでも重厚感のあるBGMが流れていたりしたと思うが、それはもうかなり古いと思うし、今は違うだろう。

【審議委員】

「美食空間向けクラシック」という事で、高級飲食店に向けてこの番組を考えたのかもしれないが、本当に高級飲食店向けなのだろうか。「D-46 美食空間向けクラシック」は、「イタリアン空間向けクラシック」からリニューアルされた番組で、リニューアルに際し、イタリアに関連するオペラ・アリアを選曲から外したとの事だ。私が行った事のある高級イタリアンでは必ずと言って良い程オペラ・アリアが流れているが、日本の高級飲食店は、イタリアンよりフレンチの方が多いだろうから、確かに「D-46 美食空間向けクラシック」でオペラのテノールが流れるのは違うだろう。私が唯一気になったのは、他の委員も指摘していた、曲の長さのバランスが違い過ぎる事だ。6分から8分程度の尺の楽曲でまとめると、それに体も耳も慣れて、会話も楽しめるだろう。

ピアノ独奏は少し違和感を抱いたが、他は弦楽器の演奏で非常によくまとまっている、非常に良い選曲ではないかと思う。私はクラシックに詳しい訳ではないが、落ち着いて聴ける安心感がある。ピアノ独奏や曲の長さ等を意識して選曲すれば、更に素敵なBGMになるだろう。美食空間向けのBGMはどのようなBGMかというのは、また別の問題になって来るが、「美食空間向けクラシック」という番組名を見て、誰が選んで流すのだろう。別に最高級の高級飲食店でなくても、それぞれが自分の店は美食空間だと思っているかも知れない。非常に良く出来た番組だが、番組名を付け替えるだけで、喜んで聴いてくれるシーンが有るのではないか。

【審議委員】

「I-17 ワークアウト洋楽」は、完成度が非常に高いと思う。ジムのデザインをした事が有るが、最近ジムでもかなり細分化している。細分化していても、ジムのオーナーや管理をしている人達はBGMに気を遣っているのは確かなので、こういう番組はとても使われるのではないかと思う。また、「スポーツ&フィットネス洋楽」から「ワークアウト洋楽」に改名した事で、シーンに対して完全にはまったのではないか。そもそもジムやフィットネスで体を動かすと、アドレナリンでやる気が出るという人も勿論居るとは思う。私は体を動かし終わった後の爽快感というのは感じるが、最初は辛いんだろうとネガティブな気持ちからスタートする。「I-17 ワークアウト洋楽」は曲だけでポジティブでハッピーな方に気持ちのスイッチを変えてくれるので、ジムやフィットネスに非常に合うと思う。そういう意味で、マイナスな感情をプラスにする機能があるBGMという事で考えると、ジムやフィットネスだけでなくもっと色々なシーンに使えるだろう。沢山思い付いたが、例えばカジュアルな洋食店やカフェでもそこまでカフェっぽいBGMに拘っていない店、挑戦的ではあるが歯医者等病院の待合室も合うのではないか。私にとって歯医者はキーンという機械の音がしているだけで入りたくない空間だが、こういうBGMが流れていると、ポジティブな気持ちになれるし、ニューヨークやロサンゼルスではこういうBGMが流れている歯医者も沢山有るのではないか。

【審議委員】

マーケットインの考え方が大事で、そのマーケット=出口がはっきり精度を高めて設定できないと、入口=選曲が違ってくるのではないか。番組制作の場合、シーンに対してこういうBGMを流せば良いですよと提案するのか、そのシーンで既に流れているBGMやオーナーの要望を参考にするのか、2通りあると思う。今回の「I-17 ワークアウト洋楽」は、選曲の根拠は何処にあるのだろう。

【放送局】

ジム、フィットネスに何か所も行った事が有る訳ではないが、今まで行った所は全て USEN の番組を利用して。EDM の番組が流れていたり、J-POP の番組が流れていたりした事も有るが、テンション高くワークアウトするには、EDM 系の番組が良いと考えている。

【審議委員】

それをベースに、「I-17 ワークアウト洋楽」を選曲する際チャレンジした事は何だろうか。

【放送局】

テンポ感をきちんと統一する事と、EDM の中でも明るい響きのメジャーの楽曲だけ選曲する事だ。EDM というワードを見て番組をご利用いただく事も有るが、EDM というジャンルで選曲しているので、中には暗い響きのマイナーな楽曲も流れる。今回で言うと、テンポを揃えて尚且つメジャーの曲だけ選曲するというのは今まで無かったので、新たなチャレンジだ。

「スポーツ&フィットネス洋楽」は元々ジム・フィットネス業態の定番 BGM を作りたいというコンセプトで作られた番組であり、今はジム・フィットネス業態が多様化しているので、改めてそこにマッチする定番 BGM をというコンセプトでリニューアルされたのが「I-17 ワークアウト洋楽」だ。

【審議委員】

シーンが進化する中で、BGM も進化させて、お客様に提案しているという事ならば良いのではないだろうか。結果的に顧客が増えれば良いだろう。

【審議委員】

「I-17 ワークアウト洋楽」を聴いて感心した。bpm を揃えて、明るい雰囲気を出す BGM として、この番組が作れるのは凄い。他の委員も言っていた様に、もっと色々な場所に合うだろう。普通に聴いていて明るい気持ちになれる空間を作る時に「I-17 ワークアウト洋楽」は効果的だ。EDM は似た構成の曲が多く、ずっと聴いていると飽きるのではないかと懸念が有るが、リニューアルした事で、シャッフル放送が可能になり、更にメンテナンスが容易になるので最新曲も追加出来るというのは非常に効率的で、気持ちの良い空間を作る上で素晴らしい事だと思う。更に一工夫足すとしたら、例えば懐かしい曲やリミックス、カバーを入れても良いのではないか。知っている曲を聴いている時の方が、追い込まれた時に力を出せる。「I-17 ワークアウト洋楽」の選曲は聴き流すには良いが、あまりに今っぽいので一緒に頑張る BGM ではないと思う。一方で、そもそもジムでは自分のプレイリストを聴いている人が多いので、BGM で空間を演出する意味が有るのだろうかとも思う。自分のプレイリストに拘らず、楽しそうな空間で元気に 30 分～1 時間程度頑張るワークアウトする BGM には良いと思う。ディレクターは本当によく考えているのだなと感心し、とても良い選曲だった。

【審議委員】

「ワークアウト洋楽」という単語は一般的に認知されているのだろうか。

【放送局】

「ワークアウト」という単語自体は割と普及していると思うが、「ワークアウト洋楽」と組み合わせるのはこの番組が初めてか

もしれない。

【審議委員】

でも「ワークアウト」は「フィットネス」程は普及していないだろう。

【審議委員】

サンプルの曲順には何か意図が有るのだろうか。また、女性ヴォーカルが多いがそれも何か意味が有るのだろうか。

【放送局】

曲順は実際のシャッフル放送から無作為に抜き出しているので意図は無く、どのタイミングで聴いて頂いても同品質なBGMを聴いて頂きたいと考えている。女性ヴォーカルについては、男性ヴォーカルより女性ヴォーカルの方が爽やかさを演出出来ると考えている。

【審議委員】

「D-46 美食空間向けクラシック」と同じ様に楽曲の長さについても考えてみたが、中には1曲だけ短い楽曲が流れた。また、中には他の曲に比べて単調過ぎて違和感を覚えた楽曲も有った。それが体を動かす場面はどう影響するかについては分からないが、その様な印象を抱いた。

ジムやフィットネスには幅広い年齢層の人が行くが、高齢者も健康維持の為に結構ジムやフィットネスを訪れる。若い世代と高齢者では体を動かすのに丁度良いビートは異なるが、BGMが流れていると、そのビートに合わせて体を動かす事が求められる。「I-17 ワークアウト洋楽」は若い世代向けの番組だろうが、ジムやフィットネスを訪れる人の年齢も考えて、ビートを調整してはどうだろう。

利用シーンは、ジムやフィットネス等閉鎖的な空間を想定しているが、開放的な空間でも良いのではないかと思う。屋外で行うスポーツも有るので、例えば夏は海水浴場、冬はゲレンデ等、想定しているより利用シーンはもっと広がるのではないか。気持ち良く体を動かせる場で流すBGMとして考えると、よくこれだけの曲を選んだと感心した。遊園地の遊び場でも良いのではないか。

【審議委員】

私はそこまでハードな運動はしないが、時々プールに行く。そういう場所のBGMも古い曲は時々目立つので、新しくしないといけないのだろうと漠然と考えていたが、「I-17 ワークアウト洋楽」は本当に新しい。実は結構有名なアーティストの曲が選曲されていて、そういう点で統一感が取れていて、全体的に爽快感も感じられて良かった。また、シャッフル放送との事だが、曲順固定ではなくシャッフル放送で聴くのが最も良く、この番組の特性が活きるだろう。EDMの音楽プロデューサーが新しい層を掴もうと様々な女性シンガーを迎えてヒットした曲が多く選曲されていたり、そこまで新しく良いのかと驚く程、最近の若いアーティストの曲も選曲されていたりした。歌詞の内容まで少し神経を使って選曲すれば更に良い、非常に新しいLGBTQ的なフリーな雰囲気も感じられる。

利用シーンでは、私も屋外キャンプや海の家で流すのに良いと思った。スキー場でリフトに乗っている時に聴いたら、きっと気持ち良いだろう。非常に新しい、最先端で爽快感の有る、フィジカルな曲をよくこれ程のクオリティで集めたと思う。

【放送局】

今回はコンセプトが大きく異なる2番組を審議頂いた。

「D-46 美食空間向けクラシック」は、選曲内容について、楽曲の長さの違いや数曲に1回流れるピアノ独奏に違和感を覚えるという意見が複数有った。ピアノ独奏は、BGMに緩急を付ける為に入れていたが、制作側が意図したようには受け止められず違和感を与えてしまっていたということを認識した。そもそも、BGMに緩急を付けるのが良いのか、統一感を持たせるのが良いのか、改めて検討したい。また、バランスを取り過ぎると普通になってしまうという意見は強く印象に残っている。放送は1対nのサービスなので多くの人に良いと思って貰える様にどうしてもバランスを取りたくなる。尖れば尖る程、面白がって貰えるが、やはり一部からの人気になってしまう。1対nのサービスを提供する時にどうバランスを取るのか、BGMを生業としている者としては、この番組だけでなく考えた方が良いと思った。シーンについては、美食とは何か、では美食空間とはどういう空間かという設定を更にしっかりと提示、説明出来る様にしないといけないと感じた。番組制作の際、我々が行った事が無い場所もシーンとして設定しないといけない場合もあるが、次回以降、シーンの定義も説明しながら審議を進められるようにしたい。

「I-17 ワークアウト洋楽」は、選曲内容について、総じて褒めて頂いたと認識している。EDMというジャンルを扱う以上避けられない部分ではあるが、単調な曲が選曲されていたという指摘も有った。この点は、もう少し磨きをかけていきたいと思う。シーンについてはジム、フィットネス以外でも使えるのではないかと意見を頂き、体を動かす場所だけではないというのは改めて気付かせて頂いた。

今回の2番組はリニューアルした番組だが、更に良い番組に出来るように工夫していきたい。